

# 第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/27】

## 男子準決勝

京都府選抜 8

0	—	1
3	—	0
3	—	0
2	—	2
PSO		

3 岡山県選抜

審判： 太田 一誠  
荻野 浩明

京都府選抜	22	SH数	23	岡山県選抜
	7	速攻数	4	
	7	ST・SB	6	
	4	SH・P誘発アシスト	4	
	75%	GK阻止率	43%	
	6	EX反則数	5	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

優勝候補の京都に地元の岡山が挑む形の準決勝第2試合。京都のエース井上のプレーをどこまで封じることができるかが岡山側の対策となるが、どうやって京都から得点を奪っていきけるかへの戦術も見ものとなる。

### 1P

岡山は京都側の攻撃のスペースを消す陣形でのディフェンスを敷き、容易にボールをゴール前に入れさせないことと、井上を高い位置にとどめておく対応で臨んだ。そうした作戦はピタリと当たって、京都側に決定的な場面を作らせず、ペースは完全に岡山。京都のシュートは外周に限定され、ゴール枠からも外れることが多かった。岡山の攻撃は一応センター位置にまでポジショニングするものの、そこで勝負することはせず、シュートも外周からという展開で、全く点数が入る気配のない試合展開となった。このまま無得点でピリオド終了するかと思えた残り20秒で、京都・井上のミドルシュートを岡山GK小高が止めたところを積極的に前へ泳ぎ、斎藤が中央トップ位置からゴール上隅へ決めて、岡山が1-0とリードしてピリオド終了。

### 2P

このピリオドも前のピリオド同様にゆったりペースの応酬となったが、岡山のパスを藤原がスチールしたことに乗じて京都・井上がカウンター攻撃を仕掛けて、右サイドから目の覚めるようなシュートを放って1-1の同点(3:54)。京都・井上が絡んで岡山ゴール前で得た退水攻撃を藤原がリバウンドを押し込んで2点目を奪い、さらに終了直前には岡山の攻撃時反則から前に出て、本部が左サイドからGKを抜くシュートを決めて京都3-1岡山で前半を折り返した。岡山のゆったりディフェンスは効いているものの、その後の攻撃の決め手が明確ではなく、岡山側には得点する気配があまりないという前半であった。

### 3P

点差は開いていない状態だが、岡山側の攻撃が組織的ではないことから京都は我慢してチャンスをうかがう展開となった。中盤まではこれまで通りのゆったりした展開であったが、残り2分を切ってくると京都に流れが大きく傾いてきた。井上のスチールプレーからタイミングのいいパスが飯島に繰り出され、そこでペナルティを誘発して、本部が決めて京都4-1岡山となった後は、京都がペースアップして連続得点。ようやく相手ミスを効果的に突く京都らしさが出て、京都6-1岡山と引き離して第3ピリオド終了。

### 4P

このピリオドも先手は京都。センターボールから飯島がセンターシュートを決めて6点差。後のなくなった岡山がようやく泳ぐ攻めを見せて、退水から2点を奪ったものの、結局は京都8-3岡山で京都が決勝進出を決めた。

## 【プレー分析から】

京都は岡山の守備に手を焼いた形であったが、岡山がマークした井上のプレーにも課題が残った。確かに遠目の位置で止められる場面が多く、ボールが井上に集まってもシュートは有効な選択肢にはなり得ず、パスをどこに出して自身が次のチャンスをうかがうというプレー選択が注目された。この試合では、岡山ディフェンスが空けている左0°位置へのパスが多く、そこで受けたプレーヤーの選択肢は外周、しかも角度のないところからのシュート以外にプレーできないところであったことを考えると、右奥へパスを出し、自身がその後ろにできたスペースへ泳ぎ込むか、あるいは、左45°あたりに出して、そこでも井上自身が前に出て右45°でボールを受けることができれば左利きの有利さからシュートレンジに入った可能性もあった。そうしたパス一つでディフェンスを崩すことにももう少しチャレンジできる展開ただだけに、今後の成長を期待したい。